

## 令和5年度英語授業改善協力校事業[小学校]に係る授業研究会

今回は、本事業の今年度最後の授業研究会についてお伝えします。

野洲市立祇王小学校〇〇教諭は、4月から、愛知県立大学外国語学部 池田 周教授に指導助言をいただきながら、「子どもの気付きを大切に言語活動の充実」をテーマとして授業改善に取り組んでこられました。その取組の成果を、県内の先生方に参観いただき、協議を行いました。公開授業や池田 周教授の指導助言を通して、これからの外国語教育の在り方を学ぶことができ、充実した時間となりました。

## &lt;研究授業&gt;

単元名:〇〇さんの友達に、栄養バランスを考えたオリジナル和定食を紹介しよう。

Let's think about our food. (NEW HORIZON Elementary 6 Unit6)

単元目標:〇〇さんの友達に、自分が考えたオリジナル和定食に興味をもってもらうために、食材の産地や栄養素グループを伝える表現を用いて、詳しく話して伝えることができる。

本時目標:食材の栄養素グループを伝える表現を知り、オリジナル和定食で使用する食材の栄養素グループについて伝えることができる。

新滋賀県モデル「CAN-DOリスト(令和4年度改訂版)」:話すこと[発表]小学校外国語科6年



小学校6年生の授業。関わりのある〇〇さん(野洲市国際協会)からの「イギリスの友達におすすめの和定食を紹介してほしい。」というリクエストを受けて、地域の食材を使った栄養満点の和食を紹介する単元(全8時間)の第3時。自分が紹介するオリジナル和定食を栄養バランスのよい和定食になるよう見直し、栄養素グループを含めて伝え合う授業でした。

〇〇教諭は、〇〇さんの友達が母国の料理を紹介する動画を1人1台端末でも見られるようにし、児童が繰り返し聞きながら、内容や使われている言語材料に気付き、「食材の栄養素グループについて伝える。」という本時のめあてを捉えられるようにしていました。

また、「指導者と児童のやり取りから聞き取ったことを発話する」「何度もペアトークをする」「各自の習熟度に応じて、各自で練習する」などの「子どもの気付きを大切に言語活動」から、児童は「読み解く力②分析・整理」「読み解く力③再構築」を繰り返し、その中で言いたいことを伝えられるようになっていきました。

このような児童の姿は、〇〇教諭が以下の点を心掛け、取組を続けてこられた成果であると考えます。

- ①単元を貫く言語活動の設定
- ②単元終末の言語活動に向かう単元構成
- ③コミュニケーションの必然性が生じる単元目標の設定
- ④新出表現や既習表現をたっぷり聞いたり、話したりする活動
- ⑤音声で慣れ親しんだ言語材料を少しずつ読む活動
- ⑥安心できる雰囲気づくりや仲間づくり



## &lt;授業研究会&gt;

本時の授業から、以下の2点を協議の柱として、グループで活発に話し合いました。

「内容や表現に着目して目的をもって聞くことが、児童の聞く力を伸ばし、話す力の育成につながっていたか。」

## 協議で出たポイント

- ・伝える相手からのビデオレター(本物の教材)  
→聞こうとする意欲、伝える必然性が生じる。
- ・着目して聞くポイントや適度なヒントの提示  
→目的をもって聞くことができる。
- ・指導者の正確な発話  
→児童がis, areの使い分け等に気付くことができる。
- ・何度も聞いて、何度も話す活動  
→繰り返すうちに、新出表現も話せるようになる。

「めあて(本時の目標)に向けて、指導者による児童一人ひとりへの支援が効果的であったか。」

## 協議で出たポイント

- ・単元目標に向けた必然性のあるスモールステップ  
→自らの上達を実感し、自信をもつことができる。
- ・児童の発言を引き出してつなぐ、指導者の問い掛け  
→児童が自ら考え、主体的に学ぶことができる。
- ・自分の習熟度を確認した上での個別練習の場  
→苦手な部分を重点的に練習し、できるようになる。
- ・全体や机間指導での、指導者の肯定的な声掛け  
→児童が安心して発話することができる。

# <指導助言> 講師:愛知県立大学外国語学部 池田 周 教授

「子どもの気付きを大切にする言語活動の充実」について、本時の授業を踏まえながら、助言をいただきました。

## 子どもの気付きについて

- 小学校では、「その表現を使うと、どんなことを伝えられるか」について、児童が意識できるようにする。すると、児童はその表現を様々な場面で使用できることに気付く。
- 気付きには様々な意味があり、学習内容の習得には、自分が分かっている内容を言語で伝えられる「Verbal reporting(言語報告)」まで行うことが大切である。
- 児童の気付きを促すためには、以下のような児童の学びへの意識的・意図的介入が必要。
  - ①指導者による学習到達目標の明確な設定
  - ②具体的に目標を提示し、児童と目標を共有
  - ③インプットの質や量の調整
  - ④段階的な言語活動と必要に応じたインプット強化
  - ⑤学びの整理整頓や言語報告の活用(振り返り)
  - ⑥個に応じた適切な問い掛け(発問)



池田 周 教授

## 授業について

### 単元の目標

○○さんの友達に、自分が考えたオリジナル和定食に興味をもってもらうために、食材の産地や栄養素グループを伝える表現を用いて、詳しく話して伝えることができる。

だれに(相手意識)

何のために(目的や場面、状況等)

何を用いて(言語材料)

### 本時の展開

何ができるようになるか(Can-Doリストの形での学習到達目標)

#### 8. 本時の指導案

- 目標 食材の栄養素グループを伝える表現を知り、オリジナル和定食で使用する食材の栄養素グループについて伝えることができる。
- 準備物 タブレット・ワークシート
- 本時の展開 (3/8時)

分	学習活動 Students	支援(○)&指導上の留意点(・)	◎評価規準 (評価方法)
1 5	1. あいさつをする。 2. 前時の復習	・指導者が、産地を伝える表現を使ってオリジナル和定食を紹介する。さらに、児童に、各自のオリジナル和定食について問いかける。	※本時では、記録に必ず評価は行わない。
12	3. ○○さんの友達からのビデオレターを視聴し、本時のめあてを考える。	・児童が本時のめあてに繋がる内容や表現を聞き取り、めあてを考える場を設ける。 ○一人一台端末でビデオメッセージを聞けるようにする。本文の音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞いたりして、栄養素グループを伝える表現を各自が聞き取れるようにする。 【発見・蓄積】	
22	4. オリジナル和定食で使用する食材の栄養素グループについて伝え合う。 ①自分のオリジナル和定食の内容を見直し、食材の栄養素グループを考える。(個人) ②栄養素グループを伝える表現に慣れる。(T-S) ③ペアトーク 中間交流 ペアトーク	○指導者の和定食をバランスの良いメニューにするために加える食材や栄養素グループを児童とともに考え、児童が和定食の内容を見直す際の参考になるようにする。 ・栄養バランスのよい和定食になるよう、児童が食材を見直しているか確認する。【分析・整理】 ○指導者と児童のやり取りを見せて、児童が繰り返し発話し、栄養素グループを伝える表現に慣れることができるようにする。 ・中間交流では、習熟度を確認し、必要があれば、各自で練習する時間を取る。 【分析・整理②】 ・○○さんの友達への紹介であることを意識して、ペアトークをするよう声を掛ける。 【再構築】	
5	5. 本時の感想を交流し、学習を振り返る。	・本時でできるようになったことを確認する。 ○本時のめあてに沿って、児童のよかった姿を紹介する。 「食材の栄養素グループを伝える表現が分かったね。」 「オリジナル和定食の食材について産地や栄養素グループを伝えることができたね。」	

学びの確実な構築には、めあて(本時の目標)が、しっかりと児童に共有されていることが必須。そのために、イメージの構築(デモンストレーション)や、児童自身のことばで表現できるようにすることなど、指導者の手立てを工夫する。

ICTを用いた個別最適な学びの試み

「中間交流」が、単に「英語で表せなかったことを確認」する時間とならないように。「読み解力②分析・整理」となるためには、友達が頑張った部分や、教師による「めあてに即した」問いかけを受けて、「自分で直前の活動(ペアトーク)を振り返る時間」ともなるように配慮する。

伝える相手がどのような人かを考え、その人に向けた「内容」や「伝え方」などを考える。[=相手意識]。ペアやグループ、クラス全体でさまざまな考えを共有し、より望ましい「内容」や「伝え方」を検討した上で、最終的にはそれぞれの児童の判断(工夫)を尊重していきたい。